

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区鵜の木 2-34-20
園名	アスクウのき保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界を知ろう

<テーマの設定理由>

英語のレッスンを通して自分たちの住む国とは違う国があるということは知っている子どもたち。では世界には他にどんな国があるのか、子どもにとって興味を持ちやすい国旗を通して学びを深め、幼児期に世界へ興味を広げて欲しいと考えた。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

11月：アメリカと日本の国旗 代表的なスポーツについて学ぶ

12月：アメリカと日本の国旗 代表的な食べ物について学ぶ

1月：マイフラッグ作り

2月：6枚の国旗

3月：国旗を作ってみよう/外国の遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・国旗絵本・・・日頃から子ども達が自分で国旗を見たり、気になる国旗の国名を調べたりするために使用
- ・地球儀・・・世界の国々への興味を広げるため、また、地球のどこに何という国があるのか調べるために使用
- ・国旗の塗り絵・・・国旗に使われている色や形により細かく気付いたり、自分なりに感じた事・考えたものを表現したりするために使用

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える： 国ってなあに？このイラストは日本とアメリカどっち？

- ・英語でなんというのだけ？
- ・相撲とフットボールってどんなスポーツだろう？
- ・国旗に書かれているもの○か×かクイズ
- ・好きなアメリカ国旗を塗ってみよう
- ・国旗に似ているね、図鑑を見てどこの国旗か調べてみよう。
- ・国旗に出てくる色は??

探究活動の様子：

友達同士で「どっちだっけ？」「こっちだよね？」と確認しあう様子がある。グループごとに自信をもって考えを発表できた。

国旗に書かれているものの○×クイズをして、あっている子は喜び、間違っていた子は「残念だったー」といえるようになった。

国旗の絵本が身近になり、既視感のある国旗（日本、カナダ等）をイメージして書こうとする子が多かった。

横にしたらフランスで、縦だとオランダだ、と色の向きに気が付いた。ブロックを並べ替えてデンマークの国旗を作る子もいた。国旗絵本を見ながら、これはできる、カナダは色だけじゃないから（形、模様がある国旗だから）できないね。と話し合っている。

英語でのコミュニケーションだったこともあり、本物の色に塗ることが理解できずに好きな色を塗る子がいた。知っている国は自信を持って塗っていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

合っていても間違っているでも「イエーイ！」と喜ぶ空気でみんなが喜んでいたので、くくりが分かったが微妙。

2つのイラストのつながりをグループで気づきを共有したことで覚えることができた。

英語だけでもその中に○×を探して国旗の特徴を捉得られる子がいたので耳がいいなと思った。

忠実に再現する子、独自の色で塗る子、記憶を再現しようとしていることが伝わってくる子などそれぞれのこだわりがよく見られた。

自分の記憶の中の国旗をイメージして書こうとしていたことに驚かされた。

遊びの中で自然と国旗が取り入れられていたことに驚いた。子どもたちだけで学びを深めていた。

繰り返し国旗の話英語講師と重ねてきたので、発音が良くなっていて驚いた。理解も進んでいる様子。

国旗に慣れて知識も増えて、イメージが定着している子が多いと感じた。

【4歳児実施分】

問いを考える：国の特徴は何だろう？

どんな色でぬってみようか？

前に塗ったのは何色だったかな？

この国は何色を使っている？

どんな色が好き？

どんな模様が良いいかな？

どんな国なのかな？

外国にはどんな遊びがあるのだろうか？言葉は違うけどやってみてどうだった？

探究活動の様子：国カードの特徴を一通り覚えたらクイズを通して繰り返し遊んだ。

国の名前を英語で覚えて使ってみようとする姿がある。発音が良くなる。

図鑑を見て国にはそれぞれ国旗があることを話し、自分なりのオリジナル国旗を作っていた。国旗の中のここは何色？と聞いていった。全て英語だったが臆せずに思ったこと覚えていることを口に出して答えている。

異文化に興味が出てきた様子だったので、小グループで遊びについて考えてみることにした。各グループ「きつと椅子取りゲームはあるんじゃない？」「ジャンケン列車」「びりびりゲーム」などがあがった。ハンカチ落としに似た「ダックダックダックグース」というゲームを知らせるとやってみたいと。全員で体験してみることにした。終了後またグループに分かれ、感想を話し合った。「少しルールがちがっていたからとても楽しかった」と違いに気づいたグループと「遊び方があんまり変わらない」と言葉は違っても遊びは国を超えてくることに気が付いたグループがあった。

国の特徴を英語で伝え、国を当て、国旗を描くゲームを行った。

ふりかえり（保育士の気づき）：楽しい雰囲気の中で繰り返しいうことで自然と英語に反応できている。

前回のおさらいをしつつ、今回もゲームをして国と食べ物カードをつなげていた。

図鑑に沢山の国旗があるため、イメージがわいてくる様子

逆に固定されてしまう子もいるので自由な発想を促せるようにした

回数を重ねて国旗の色や模様をたくさん覚えたので英語の理解が深まった。

国旗に親しんできたので、国のイメージが付いている様子が見られた。

感想はただ、楽しかったなどだったが、言葉の違いやルールの違いはあれど一緒に遊べそうだと気が付いた子もいて、子どもの心は柔軟だなと改めて感じた。

【5歳児実施分】

問いを考える：国の特徴は何だろう？

すきに塗って良いよ

自由に描いて良いよ

どんな意味があるんだろう？

国旗の意味を考えて見よう

探究活動の様子：国カードの特徴を一通り覚えたらクイズを通して繰り返し遊んだ。

図鑑を見て国にはそれぞれ国旗があることを話し、自分なりのオリジナル国旗を作っていた。

すでに自分の好きな国旗がある子はその国旗を描き、そこに付け加えてオリジナルの国旗にする子もいた。好きなものを自由に描いて良いことにも気が付き、自由な発想で描く子もいた。

国旗に長い間親しんできたため、それぞれ国旗には色々なマークがあることに気が付いてきて興味を持っていた。マークや色になにか意味があるのか調べてみることにした。図鑑には載っていなかったもので、担任がインターネット等で調べて伝え、もし自分の国を作るとしたらどんな国旗にしたいか考えて見ることにした。グループで相談し合い、それぞれに意見を出し合った。中国の星の意味が大きいものは国、小さいものは国民を意味している、と知り、国の人と仲良くしたいから星をいっぱい描くことに決めた子もいた。国のシンボルは城、だから国旗には城を描くという意見も出ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

楽しい雰囲気の中で繰り返しいうことで自然と英語に反応できている。

ゲームをして国と食べ物カードをつなげていた。異文化に興味が出てきているように感じる。

国旗に親しむうちに興味を深めていて、意味の理解も良くなっていった。学んだことを活かして考えて意味を込めて国旗を作っていた。子どもたちの豊かな発想に驚かされた。今後も続けて、深めていきたい。



レゴで国旗を作っているところ



自分の国の国旗を描いているところ



外国のゲームを楽しんでいるところ

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区鵜の木 2-34-20
園名	アスクラのき保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

廃材から音を知る～音の鳴る仕組みを考えよう～

<テーマの設定理由>

廃材製作を好み、日々様々な発想を持ち表現活動に熱心に取り組んでいる姿が多く見られる。その中で、廃材を叩いて音を出す姿なども見られるようになっていたため、音の鳴る仕組みについて探究活動をするのが良いと考えた。子どもたちがどこに向かうかによっては実現できないが、最後は自分だけの楽器作りができたら面白いと感じた。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：音かるた オノマトペビンゴ

12月：どんな音が鳴るかな？

1月：楽器の種類

2月：オリジナル楽器づくり

3月：本物の楽器に触れてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

木琴・鉄琴・タンブリン・ギロ・トライアングル・鈴・カスタネット・ハンドウッドブロック・アルゴウッド・リングベル：様々な楽器に触れて、音の違いを感じたり、音の鳴る仕組みを見て感じたりするために使用

大型絵本もこもこもこ・・・オノマトペの導入として使用

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

どんな音が聞こえる？絵を見てどんな音が聞こえるか想像してみよう。この音はどれを使って出した音でしょう？どうやったら音が鳴る？どんな音が鳴る？喉を触りながら歌うとどうなっている？

前の音楽でやっていたのをやってみる？？震えると動く実験

この楽器はどの仲間でしょうか？どんな楽器を作りたい？何を使ったら良いかな？

本物の楽器はどんな音がするかな？

探究活動の様子：

聞こえた音のカードを探して手に取る。こんな音にも聞こえると意見を出す。

「これは〇〇だね。」と進めてしまう子もいたが「こうだと思う？」と相手の意見を聞きながら進めようとするとする子もいた。

手を挙げた子に鳴らしてもらおうと一発で組み合わせを当てていた。その後、みんなでペットボトルとわりばしを組み合わせた楽器を鳴らして楽しんだ。

手を挙げた子に鳴らしてもらおうと一発で組み合わせを当てていた。その後、みんなでペットボトルとわりばしを組み合わせた楽器を鳴らして楽しんだ。

喉が震えていることに気付くと「振動」という言葉を覚え口にする子がいる。また、トライアングルの音を手で止める体験もする。

「優しくたたかないとすぐ倒れる」ウサギ（大）よりカメ（小）が勝った！！」気づいたことを友達同士で言い合いながら自らルールを作ってゲームを進める

例えばティンパニのように見たことがない楽器であっても、太鼓みたいな形であることに気が付き、太鼓が膜鳴であることから正解にたどり着いていた

自分が選んだ廃材で、イメージを膨らませて「こうしたい」と保育者に伝える姿があった。

また、ピアノを作ろうとしていたがイメージが変化し太鼓を作り上げた子もいる。

見たことがない楽器、見たことはあるけど触ったことがない楽器、に興味津々。鉄琴木琴の音をはじめは一つひとつ出していたが、途中で端から端までバチを滑らせ流れるような音を出し「こんな鳴らし方もあるよ」と教えていた。シンバルは自分で鳴らした音に驚いて目をつぶる子がいた。

ふりかえり（保育士の気づき）：音に興味を持って活動に参加できた。自分が聞こえる音を発表できた。

話し合いで出た音を探してみよう。というテーマに興味を持って「これからも同じ音出てくるんじゃない？」と想像を膨らませていた。

廃材楽器の音を聞いただけで組み合わせが分かったことが驚いた。廃材楽器に興味を持てるよう、ひまわりに行く機会を作りたい。

保育者の列から派生させてどんどん新しい音を見つけていく姿が見られ驚いた。

楽器の分類について難しい部分もあったが勉強になった。

大きさが関係するのか、叩く強さが関係するのか、という議論を子どもたちだけで交わっていて驚いた。

経験したこと知っていることを応用するという「考える力」が養われていると実感した。

自分のイメージが形になる事、音の出る仕組みで学んだことが目の前で起きていることに楽しそうな表情がたくさん見られた。

本物の楽器の音と、音の響き方に目を見張っていたのが印象的。色々学んで音への理解を深めたからこそ、感じている響きもあるようだった。

【4歳児実施分】

問いを考える：

どんな音が聞こえる？絵を見てどんな音が聞こえるか想像してみよう。この音はどれを使って出した音でしょう？どうやったら音が鳴る？どんな音が鳴る？身近なものを使って音を鳴らしてみよう。喉を触りながら歌うとどうなっている？

この楽器はどの仲間でしょうか？どんな楽器を作りたい？何を使ったら良いかな？

本物の楽器はどんな音がするかな？

探究活動の様子：

オノマトペについて、物の音や犬・猫などの鳴き声をカードを使ってクイズをして子どもたちも楽しんで参加していた。叩いてどんな音がするか確かめる。廃材を使って思い思いに音を出していた。叩くだけでも、手でたたく、棒でたたく、机でたたくなどしていた。

廃材の音を聞いた後、楽器には、「鳴」音にはそれぞれ名前があることを話して鳴らして、名前を結び付けていた。

分類をよく覚えており、自信を持って分ける子が多かった。

廃材を組み合わせて作りたい音の楽器を作ろうと試みた。担任がギターを弾くので、ギターを作りたい子が多く、アイデアも出し合って作っていた。

本物の楽器を出して自由に触れられるようにした。触って遊び、自然と合奏が始まった。歌を歌い盛り上がっていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

これはどんな音がしたの？の問いに、一人ひとり自分なりの音を表現していた。

個人で音の感じ方は違い、表現も違う。表現を一人ひとり受け止め、発見を喜ぶことで取り組む意欲が増した。作品を発表することでお互いの発想を共有することが出来た。音が鳴る仕組み、廃材で音が出せるように色々なアイデアが出ていた。難しい言葉に感じたが子どもたちは素直に受け止め、覚える子が多かったことに驚いた。理解の良さに驚いた。本物の楽器の音の豊かさに魅了されているようだった。本物に触れることは大事だと感じた。

【5歳児実施分】

問いを考える：どんな音が聞こえる？絵を見てどんな音が聞こえるか想像してみよう。この音はどれを使って出した音でしょう？どうやったら音が鳴る？どんな音が鳴る？身近なものを使って音を鳴らしてみよう。喉を触りながら歌うとどうなっている？

この楽器はどの仲間でしょうか？どんな楽器を作りたい？何を使ったら良いかな？

どうやって音を出そうか？組み合わせたらどうなるかな？この楽器とお友だちの楽器と一緒に鳴らしてみたら？

本物の楽器はどんな音がするかな？

探究活動の様子：

オノマトペについて学ぶ。物の音を聞いて何かを当てるゲームと、犬・猫などの鳴き声をオノマトペで表現するゲームをカードを使って楽しんだ。他にもどんなオノマトペがあるのか友達同士で話し合っていた。

先日のカードだけではなく他にどんな音があるのか話し合った

叩いてどんな音がするか確かめる。卵パックだとカスタネットのように叩いて音を出したがり、机を使って音を出したりする姿を見ることができプチプチだとしぼって音を出す様子もあった。

廃材の音を聞いた後、楽器には、「鳴」音にはそれぞれ名前があることを話して鳴らして、名前を結び付けていた。

作りたい種類から決めた。使いたかった廃材がない時には、他の物でどのように代わりになるのかよく考えていた。

作った楽器を持ち互いに見せ合い、バンドごっこのような遊びに発展していた。

本物の楽器を出して自由に触れられるようにした。本物の楽器でも、音を奏でながら4種類に分けていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

生活の中で自然と知識として猫はニャー水はジャー車はブーンなど身に付いていて楽しんでゲームに参加しているのが印象的だった。

オノマトペについて楽しく言葉を紡いだが、では水は本当にジャーと聞こえるのか、実際に聞いてみたほうが良かったかも知れない。半面答え合わせではないので、楽しくオノマトペに親しんだだけからこそ良かったという意見もあった。5歳児は普段から廃材製作遊びをしているので、音だけではなく形からも音を連想していることに気が付いた。音の出し方も工夫が見られたのはさすがの経験値だと感じた。

自然発生のバンドはとても楽しそうだった。もっと早く取り組んで発表会に取り入れたら実際に保護者に見せることが出来最高だった。年中はただ触って楽しむ様子だったが、さすが年長は音の鳴る仕組みをしっかりと理解していて感心した。



廃材を叩いて音を確認しているところ



廃材で楽器を作っているところ



作った楽器でバンドごっこをしているところ



本物の楽器に触れているところ

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区鵜の木 2-34-20
園名	アスクウのき保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」ってなんだろう？

<テーマの設定理由>

系列園対抗ドッジボール大会を開催している関係で、ボールを使った遊びやゲームに興味がある子が多い。ボールについて知識を深めたうえでボールを使ったルールのある遊びを自分たちで考えて実践出来たら、と考えた。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：色々なボールに触れる

12月：投げやすいボール

1月：強く速く投げられるボール

2月：蹴りやすいボール

3月：ボールを使った遊びを考えてやってみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ソフトバレーボール、キッズドッジボール、サッカーボール、キャンディボール、カラーボール
様々な大きさ、素材のボールを使って違いを比べたり、遊びを考えたりするのに使用
ホワイトボード、ペン：出た意見を書き出し、みんなで確認するために使用

【3歳児実施分】

問いを考える： ボールって何？ どうやって遊ぶ？ どんなボールが投げやすい？

片手で「強く」「速く」投げるためにどんな投げ方がいい？ その投げ方で投げるならどんなボールが投げやすい？ 蹴るならどのボール？ どちらの方が蹴りやすい？

ボールでどんな遊びができるとおもう？ バスケットにぴったりのボールは？

探究活動の様子： ボールの柔らかさ、色、大きさに気づき、保育者に伝えている。見つけた違いを踏まえて「こっちの方が好き！」という子もいる。同じ色でも大きさが違うと感じるものも違うこと、人によって投げやすいと感じるポイントが違うことにみんなで気づくことができた。「片手で投げる」をキーワードに片手で投げるならどんなボールがいいか考えていた。はじめは、大きいボールが人気だったが、片手なら小さいものの方がいいと気づいていた。様々なボールを投げ比べ、やはり「片手で」がポイントになり、片手なら小さいボールの方がいいと結論づいた。投げ方考える中で足の位置も大切なのはと気付く子がいた。初めはどれが蹴りやすいか予想し、意見を出し合う。その後実践してみて感想を伝え合う。前回と今回の全てでどれが蹴りやすいか考える。前回同様事前に予想をした。今回は見た目が大きめで同じだったことから、同じように蹴りやすいと考えた子が多かったが、実際には固さに違いがあり、はっきりと好みを口にしていた。

思い思いに遊びを考案して発表していく。結果、手で転がす、というルールのもとでボーリングに決定。

ソフトバレーは転がりやすいけど当たっても倒れない。固いボールは倒れやすいけどコントロールが難しい、という意見が出た。

パスについて学び二人一組でパスを実践し、楽しむ。バスケットではどのタイミングでパスが出るのか考えてくるとなる。サッカーもパスをすることを知り、お友だち同士でパスをしあっていました。思うように相手に届かなく「あー。投げるのも蹴るのも難しいなあ」とパスの仕方をお互い研究していた。

ふりかえり（保育士の気づき）： 遊びの中で考えることとやってみることを交互に持っていったことで興味が継続していたように見えた。外と中のボールを試し、グループの中で話してみると外派も中派も混在していたのでいい発表になった。「片手」にフォーカスしただけで子供たちの考えが変わったことに驚いた。小さいボールがいいと固まったが小さいボールにも種類があったので試してもらったとまた、新たな発見があったようでよかった。足にも注目できたのは驚いた。当然予想と結果が同じ子もいれば違う子もいた。ボールの特徴に気が付き具体的に発表できたのが良かった。固さに違いがあることに気が付いていた。人それぞれ好みに違いがあることも感じていた様子。実際にやってみることで分かることがあり、発見を言葉にしてお友だちと共感する、そんな姿が多く見られた。自分の知識と、実際の体験を結び付けて結論を導き出したことに驚いた。パスについて初めて考えてみた。キャッチボールとパスの違いを認識できた。とはいえ、深く考えてはいない様子。投げるパス、蹴るパス、簡単そうで難しいことを実感していた。相手がいることに気が付いたことに驚いた。

4. 探究活動の実践

【4歳児実施分】

問いを考える： どのボールが投げやすかったか。どんなボールが投げやすかったか。どんな使い方があるか、各々で確かめてみて。どうしてそのボールにしたの？固いボールはどうして固いのか？？ボールによって違いはあるのか？違いと硬さの関係は？ボールを使ったゲームを考えて見ようやってみたゲームをもっと楽しくするには？

探究活動の様子： ボールを使ったスポーツや使い方についてそれぞれが知っていることを話し合った。その後、好きな使い方でボールを使う実践の場を設けた。ボールを的に当てる方法を考えた。投げる、蹴る、打つなどが実践されていた。小さい軽いほうが的に当てやすかった、重いほうが遠くに飛ばせた、ぷにぷにしている方が持ちやすかった、という意見が出た。

中の空気の量のより固さに違いが生じることに気付いた。更に、素材によっても固さに変化が生じることに気が付いた。一人ひとりが試してみたボールの特徴を発表した

虹色チームの「あたっちゃだめゲーム」を全員で試してみる。制限時間内に逃げている人に当てるゲーム。完成されていて子どもたちも楽しんでました。猫チームのゲームはストーリー性が高かった。ベッドで遊んでいる子どもをママが叱るという構成で、イメージがわかりやすかった様子。

ふりかえり（保育士の気づき）： 知らなかったことを試す子よりも知っていることで遊ぶ様子が多かった。一人ひとりが自分の感じたことを理由も添えて表現できていた。空気の量の違いは今までの活動に、ぷにぷになどといっていたボールが含まれていたことにより子どもたち自身が気づくことが出来た。感覚でボールの特徴をつかんでいる様子。自分の言葉でうまく表現していた。

考えて次はこうしたいという一人ひとりのイメージをまとめることが大事。ルールを固めていくプロセスも子どもたちがしっかり楽しめていた。

【5歳児実施分】

問いを考える： どうやったらうまく投げられるんだろう。

どのボールが投げやすかったか。どんなボールが投げやすかったか。どんな使い方があるか、各々で確かめてみて。どうしてそのボールにしたの？

どうして重さが違うのか？どうやったら比べられると思う？重さの違いは感じられた？

ボールを使ったゲームを考えてみよう。どんなゲームにしたい？どんな動きにしたらよいか？ルールはどうしたら楽しいかな？

探究活動の様子： ボールを使ったスポーツや使い方についてそれぞれが知っていることを話し合った。その後、好きな使い方でボールを使う実践の場を設けた。ボールを的に当てる方法を考えた。投げる、蹴る、打つなどが実践されていた。小さい軽いほうが的には当てやすかった、重いほうが遠くに飛ばせた、ぶにぶにしている方が持ちやすかった、という意見が出た。

あえて自分の体感で重さを比べるという活動をしてみた。一つずつ順番に投げて比べる子、バウンドの仕方でも比べる子、二つを持って比べる子がいた。中には空気が入っていることは知っていたので、空気がたくさん入っていると軽いと感じると答えた子が多かった。一番小さなボールが一番軽いと感じる子ばかりではないことが興味深かった。

このボールは大きいからこのゲームには向いていないなど、ボールの特徴や特性を理解して考えることが出来ていた。どのような動きでゲームを考えるのかについても、自分たちで次々にアイデアを出して話し合いを進めていた。オリジナルのゲームというよりも知っているスポーツ（バスケットボール、ドッジボール、バレーボール）を挙げる子が多かった。

手にボールを乗せて落とさないようにするゲームも楽しそうという意見も出た。

グループ発表を聞き、子どもたちは全部組み合わせたらどうかということになり、要素混合のゲームを作っていた。例えば、バスケットボールのドリブル+投げる、的に当てる。ドッジボール+バレーボールの攻撃。

打つのが難しい子は、投げる、手のひらに載せたものを打つ。という意見を出していた。

バスケットボールについてはイメージが強い子が何人かいて、バスケットボールとしてゲームを成立させようとしている。しかし、ドリブルは難しいという意見が多く出てしまう。ドリブルはなしにしようか、とお友だちを思いやる意見が多く出ていた。ドリブルはやめよう。となつて、パスだけでボールを回そう、ということになった。

実践。パスだけでつなぐのが難しい。じゃあパスの練習をしよう。円になりパスの練習をする。やってみて、優しい気持ちでパスをしたらよいという意見が出ていた。

ふりかえり（保育士の気づき）： 知らなかったことを試す子よりも知っていることで遊ぶ様子が多かった。一人ひとりが自分の感じたことを理由も添えて表現できていた。空気の量の違いはこれまでの活動に、ぶにぶになどといっていたボールが含まれていたことにより子どもたち自身が気づくことが出来た。

計りを出して数字で見るとはではなく、体感で計測したことが探究活動としてとても良かった。過去の経験で色々な方法でボールを扱えるようになってきているのも、子どもたち目線で「比較」することの糧になっている。

全員がボールの特徴や特性を共有認識していることで、齟齬が生まれにくく話し合いが深まりやすかった。普段の喧嘩は思いのすり合わせが出来ていないことが原因なのだと思身に染みた。人の意見からイメージを膨らませて発展していく姿に頼もしさを感じた。ドリブルをしたくてバスケットボールをやろうとしていたが、お友だちを思いやる姿に成長を感じた。実践からパス練習に流れたのはすごいと思った。子どもたちの力が育っていると感じた。



ボールを比べているところ



考えたゲームを実践しているところ



円になりパスの練習をしているところ